

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	健康福祉部	
	17078	個の学び支援事業(幼稚園)		課名	子ども未来課 子ども総務G	
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長			款	10:教育費
	施策の方向	05:すべての子どもの学びを支える教育の推進			項	04:幼稚園費
戦略プロジェクト	-		目		01:幼稚園費	
事業予定期間	H 20 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等 -				

目的・概要	対象	幼稚園における園児、職員及び保護者	
	目的	公立の幼稚園における特別な支援を必要とする園児の幼稚園における安心・安全な生活を守る。	
	概要	「幼稚園職員配置基準」に基づき、クラス単位に必要な職員を配置する。必要な職員数の判定については、「就学指導委員会」において行う。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	○幼稚園職員配置基準に基づく必要数の配置 〔配置する職員〕 ・原則、介助員 ・特に配慮の必要な児童は保育士 ・医療ケアの必要な児童は看護師 〔配置数の基準〕 次の基準により、学級単位に算出 重度1:1 中度2:1 軽度3:1 〔保育環境改善事業〕 受入に伴う施設改修等	○幼稚園職員配置基準に基づく必要数の配置 〔配置する職員〕 ・原則、介助員 ・特に配慮の必要な児童は保育士 ・医療ケアの必要な児童は看護師 〔配置数の基準〕 次の基準により、学級単位に算出 重度1:1 中度2:1 軽度3:1 〔保育環境改善事業〕 受入に伴う施設改修等	○幼稚園職員配置基準に基づく必要数の配置 〔配置する職員〕 ・原則、介助員 ・特に配慮の必要な児童は保育士 ・医療ケアの必要な児童は看護師 〔配置数の基準〕 次の基準により、学級単位に算出 重度1:1 中度2:1 軽度3:1 〔保育環境改善事業〕 受入に伴う施設改修等		
	年度実績	○幼稚園教諭(1人) 介助員の配置(11人) 看護師の配置(1人)			
事業の計画・実績	計画額	事業費	13,600千円	13,600千円	13,600千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	13,390千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	12,128千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
人件費	総人件費	235千円	0千円	0千円	
	一般職員	235千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.03			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		12,363千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	加配職員充足率	活動	計画値	100	100
		配置職員数/必要職員数 各年度3/1現在		実績値	100	
				単位	%	%
	名称	介助員配置により園児が快適に園生活を送っているという満足度	成果	計画値	90	90
		介助員配置による支援体制に満足している保護者の割合		実績値	96	
				単位	%	%
名称			計画値			
			実績値			
			単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 現在、非常勤職員で対応していることから、令和2年度からの会計年度任用職員の運用などと合わせ、就労者意欲を高める方法の検討を行う。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 会計年度任用職員への制度改定に合わせ、時給を中心とした処遇の改善を行った。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 教育支援委員会(旧就学指導委員会)において、支援が必要と判定された児童20人に対し、配置基準に基づき、介助員11人を適切に配置した。また、特に手厚い支援を要する児童については幼稚園教諭を1名、医療的ケアの必要な児童が在籍していたみずほ台幼稚園については、看護師1名を配置した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 支援を要する子どもたちに介助員、幼稚園教諭などの必要な加配職員を配置し、個々の状況に応じた支援を行ったことにより、学習・生活の両面において、児童が落ち着いた園生活を送ることができた。 なかでも、学習活動や行事などに対する保護者の評価が高く、高い効果が見受けられた。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 幼稚園現場の状況を踏まえ、子どもたちの学習・生活の場として必要な人員を適切に配置することが必要であるが、生活スタイルの変化や働き方改革などから、人員確保が困難になりつつある。 また、事業全体に対しては、概ね高い評価となっているものの、より広義な部分で、加配等の対象児への園児の理解への効果はやや低めの評価となっている。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 引き続き、機会を捉えた職員募集を行いながら、適切な人員配置に努める。 また、加配職員等への研修制度を通じて、多様性を認め合える職員の意識醸成を図る。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 配置を要する児童の入所に合わせ、適切な人員配置をすることで、子どもたちが安心して園生活を行うことができる。 また、職員を通じて園児たちの多様性への理解醸成にも期待できる。	
	対応時期	随時	

【1次評価者】	健康福祉部 子ども未来課 子ども総務グループリーダー 林 秀臣
【最終評価者】	健康福祉部 子ども未来課長 豊田 達也

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	B	B	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		13,390 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	13,390 千円
	令和2年度への繰越額	千円